



2021-2022年度主題
 国際会長 キム・サンチエ(KR)
 “Heal the World with Love and Dignity”
 アジア太平洋地域会長 大野 勉 (JP/神戸ポートクラブ)
 “Think for the next generation”
 東日本区理事 大久保知宏 (宇都宮クラブ)
 「100年を超えて変革しよう」
 湘南・沖縄部長 若木 一美 (横浜とつかクラブ)
 「咲かそう 人の輪」
 クラブ会長 辻 剛
 「弱者に寄り添う愛と奉仕の実践」
 スローガン：「生涯現役」で楽しいクラブライフを！

2021-2022 クラブ役員

会長	辻 剛
副会長	林 茂博
書記	鈴木 茂
会計	横田 孝久

今月の聖句

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。

将来と希望を与えるものである。」

エレミヤ29：11

10月本例会

日時：10月22日(金) 17:00～

場所：かけはし都筑

司会：岡田美和 受付：鈴木恭子

～プログラム～

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・信条 一同
3. 今月の聖句と祈祷 チャプレン
4. ゲスト・ビジター紹介 司会
5. 会長挨拶 会長
6. 卓話 秋元 美晴先生
『一日本語教育者から見た
聖書の日本語』
7. YMCA報告
8. Happy Birthday
今城H (10/3)
9. アピール等
10. 閉会点鐘 会長



《巻頭メッセージ》

クラブ会計

横田孝久

原稿の執筆時はコロナ新規感染者が減少傾向にありましたが、緊急事態などが緩和され行動が緩む事が第6波がくるとまで言われ、ほんとうに憂鬱な日々です。ウイルスは人間が地球上に現れる前から存在していたそうですが、それが進化したのかどうかは解りませんが現代まで種々のパンデミックが起こってきました。何とか人間の能力によって対処方を見つけ、それなりに回復を繰り返して多くの人間が地球上で暮らしています。



近年、気候温暖化などの影響で地球上で様々な問題が起こっています。このままでは人間の存在そのものが危惧されます。それではこれから我々ほどのような時代にすべきでしょうか。ある人が言っています、一言でいえば「命の世紀」にしていくべきとの事。「命」とは無論、人の命のことではないそうです。これまで人は自分だけが勝つ事を考え科学を発展させてきましたが、もうその事を許される、自分勝手なことが許される時期は過ぎた。それでは「命の世紀」にするためには、「祈り」の持つ力に改めて気づくことだと言っています。祈りというと、無力な人間が、大きな存在の力にすがろうとします。祈りとは「生命の宣言」だと。日本語の「いのり」の語源は「生宣り」と解釈されていて、「い」は生命力（靈感）であり「のり」は祝詞（のりと）や詔（みことり）の「のり」と同じで宣言を意味することのこと。ですから「いのり」は生命の宣言で、人類は、宗教が生まれる前から祈りという行為を続けてきて、おそらく祈りには思いも寄らない力があることを実感していたのだと。本当に2年にもなるコロナ禍何とかしてくれよと、言いたくなり（祈りたくなる）ますが、しばらくはお付き合いが必要です。

話は飛びますが以前に宇宙飛行士が『宇宙空間から眺めると、地球は美しいだけでなく“生きている”と感じた。そして自分の生命は、地球と繋がっていると感じた。地球に生かされていると思った。それは言葉では言い尽くせないほどの感動的な一瞬だった』と言いました。そして今こうして宇宙のここにいるのは、私であって私ではない。すべての地球の生命としての我々であり、いま生きている生命だけでなく、かつて生まれては死んでいったすべての生命、そしてこれから生まれ来るすべての生命を含んだ我々だ。と言って、はじめて「自分の生命に改めて恋をした」と。なんと示唆に富んだ大きな心を語っているのでしょうか。現在我々はSDGsなど地球環境について世界中が挑んでいます。本当にこれからは多様性に富み、人と人との交わりが争いもなくお互い尊重し合って過ごしていきたいものです。そしてY'sの活動が少しでも役に立つよう知恵を出し合って、絆を強くして、楽しく過ごせる事を祈りましょう。（完）

《例会報告》

2021年9月度事務例会

日時：2021年9月14日（火）17:00~19:15

場所：田園都筑教会

（対面）・Zoomのハイブリッド方式）

出席者：今城H・T、岡田、胡麻尻、鈴木S、辻T、林、
福島、横田（以上対面）坂口（Zoom）
（合計10名）

【議事次第】

会長挨拶

社会長からご自分が透析治療に至った経緯と現在の体調の説明があり、次いで久しぶりに対面での事務例会に出席できたことへの感謝と喜びのご挨拶があった。

1. 協議事項

(1) 令和3年度赤い羽根共同募金への協力の件

* 参加日・時：10月5日（火）11:00-12:00

* 参加者：岡田M、林S、横田各ワイズ

* 場所：センター南駅前

(2) ワイズ・ナイト・フォーラムZoom開催の件

東日本区“Change!2022推進委員会”では、2021年9月~11月の3か月間、会員増強活動の一環として「ワイズ・ナイト・フォーラム」をZoomで開催する。プログラムは次の通り；

* 第1回 9月19日（日）20:00-22:00

卓話者・藤田 智さん（東京多摩みなみクラブ会員、NHK趣味の園芸等に出演）

* 第2回 10月24日（日）20:00-22:00

卓話者・利根川恵子さん（川越クラブ会員、先のオリンピックで通訳としてボランティア参加）

* 第3回 11月21日（日）20:00-22:00

卓話者・西村隆夫さん（元国際書記長、先のオリンピックで通訳としてボランティア参加、タイに滞在）

〇クラブでは、本件をFacebookに掲載済であるが、各会員はチラシを入会候補の知人、友人に送付するなど会員増強活動に協力することを確認。

(3) 卓話者の件

当面の卓話予定を次の通り確認。

* 10月22日（金）：秋元美晴・恵泉女子学園大学名誉教授「日本語教育者から見た『聖書』の日本語」

* 1月28日（金）：堤ひろみ氏（田園江田教会員）「オルゴールの話し」

* 2月25日（金）：森山真治氏（横浜YMCA健康事業部長）テーマ未定

(4) チャリティーランの件

今年のチャリティーランはウォーキング歩数を競う形式。

11月6日（土）~11月20日（土）の15日間で実施予定。当クラブからは、1チーム5万円提供することを確認。

(5) ウォーターセイフティキャンペーンの件

横浜YMCAで毎年実施している本キャンペーンに向けたクラウドファンディングに関し、鴨下担当主事から協力の依頼あり。次回例会で詳細を聞いて対応を決めることとする。

(6) ケニア・ナイロビ国立公園サファリライブツアー（Zoom）の件

鴨下担当主事より横浜YMCAが企画のZoomによるサファリツアー（2021年9月25日16:00-17:30）の説明。興味と関心のある方は、案内に従って、友人・知人へのお誘いを含め各自で参加することとする。参加費：1端末あたり4,400円。

(7) 2022年度“You & I コンサート”の件

来年度の“You & I コンサート”に関しては、コロナの状況によって開催できるか否か現段階ではなお不透明であるが、つづきクラブとしては横浜室内合奏団の意向を確認したうえで、次の方針で会場確保などの準備を進めることを確認。

* 日程：2022年9月~10月の土曜日（例9/24 10/1 10/8等）。

* 運営委員会の他の団体の意向も確認する。

2. 活動報告等

①2021-22年度上半期の区費納入

* 担当主事分2,000円を含む114,500円を横田会計から振込み済。

②第28回AIDS文化フォーラムin横浜の開催

* 今年8月6日~8日の3日間、Zoomにて開催された。例年通り東日本区より10万円の寄付を行った。

③2021-22年度第1回湘南・沖縄部評議会

* 事業報告、会計決算報告、行事予定、予算案等を承認。

* 次年度次期部長はAグループより選出する。

④ 横浜・厚木クラブ主催「日本語スピーチコンテスト」

* 中国、韓国、台湾、ベトナムからの留学生7名が参加。* 審査委員：秋元（委員長）、古田、佐藤各ワイズ。

3. 黙祷をもって閉会。

（書記 鈴木 茂 記）

《9月度本例会報告》

2021年9月度本例会報告

辻 孝子

日時：9月24日（金）17:00～

場所：かけはし都筑

司会：鈴木S、受付：辻Ta

出席者：（全26名）

（会場）メンバー／相賀、今城T・H、岡田、鴨下、

胡麻尻、坂口、鈴木K・S、

辻Ta・Tu、林、福島、横田

ゲスト／三森妃佐子様、遠藤真理様、

（ZOOM）メンバー／杉本、

ゲスト／秋元美晴様、平石麻里様、

宮村夫妻様、石田幸子様、鈴木伸様、

林滉子様

ビジター／日下部美幸様、千葉裕子様

4.卓話：三森妃佐子氏

卓話演題：「温もりのある社会を」

～YMCAとコトブキの繋がりを求めて～

<お話の概略>

・戦後日雇い労働者が仕事を探す場所として東京の山谷、大阪の釜ヶ崎、横浜の寿ができました。横浜では、寿町に職業安定所が移動、港湾荷役として働く人が多く集まりました。

・現在はその人達の高齢化が進み（高齢化率54.2%）、「日雇い労働者の街」から「福祉ニーズの高い街」に変化しています。現在の新しい「簡易宿泊所」には、テレビ、冷暖房、障害者用トイレ、エレベーターが設置されていますが、トイレ、炊事場は共同、部屋の広さは3畳と狭いです。

・又、悲しい事件も起きています。山下公園でホームレスの男性が中学生数人に蹴る、殴る、の暴行を受けて死亡。また、64歳の女性はスーパー3カ所で働いていたが家賃が払えずバス停で寝ていたところ襲われ死亡。これは寿だけの問題ではありませんが、今だに差別している人が多くいます。

・一方、毎週金曜日は、沢山のボランティアに支えられて炊き出しが永年行われています。そこには、代表者もいませんし、宗教も思想も関係なくみんながチカラを合わせて、誰もが生きやすい社会のために力を合わせて働いています。

・日本基督教団は1983年から本格的な取り組みを開始し、1987年に「日本基督教団神奈川寿地区センター」として、精神障害者への対応、診療所、保健所とかかわり、福祉作業所の給食活動の継続化、デイケア活動を推進する「市民の会」の設立、「ろばの家」での運営に取り組んでいる。その他、夜回りの開始、炊き出しの紹介などを行っています。

・また地区センターは地域の課題に取り組む際、多くの教

会と寿のパイプを担っており、YMCAやYMCAをサポートするワイズメンズクラブの会員ともそのつながりを強固なものにし、その輪を広げていきたいと考えています。

<感想>

・三森先生はコトブキで30年以上もご奉仕されていますが、その様子を伺いマザーテレサのような方だと思いました。それに比べ私たちは寿についてあまりに多くのことを知らなかったことも思い知りました。

・今回は三森先生を以前からご存知だったり敬愛している方が多く参加され、対面で16名、ZOOMで10名、合計26名の方にご参加いただきました。皆様先生のお話に変感動されたようでした。いずれ近い将来もう一度お話を伺いたいと思いました。

4.スマイル：卓話のあと質疑応答の時間を持ち、ZOOMでの参加者も含め全員でスマイルを行った。合計24,000円のスマイルを寿地区センターに献金をしました。

5.協議事項：

（1）「ウォーターセーフティーキャンペーン」について鴨下館長より詳しい説明がありました。クラブとして協力することにして、役員間で協議の上10,000円のクラウドファンディングに応じることとした。

6.各種報告

・クラブ、部、区からのアピール・行事予定の報告はなし。
・横浜YMCAよりチャリランほかについての報告あり。

7.Hppy Birthday：ビジターを含めて該当者なし。

8.社会長による閉会点鐘で閉会。

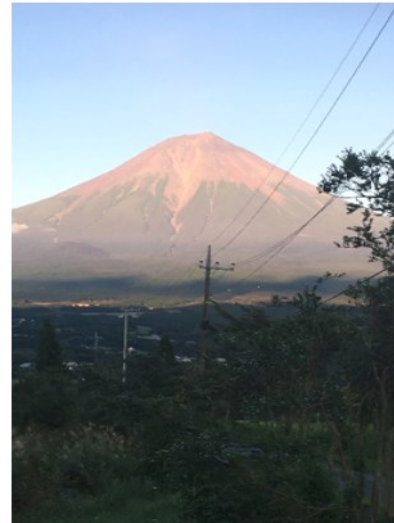


今年も1年の半分を過ぎました。横浜YMCAは4月開始となりますので、上半期を終えたこととなります。2021年度が始まってすぐの4月20日から8月1日まで「まん延防止等重点措置」、8月2日から9月30日まで「緊急事態宣言」の期間となりましたが、横浜北YMCAのプログラムは感染症対策を講じながら、計画通り実施しました。唯一、県外で実施を予定していたサマーキャンプは、緊急事態宣言のため中止としました。横浜YMCA全体で400名を超えるキャンプ参加希望者があり、キャンプへの期待を感じていたので残念でなりません。

先日、文部科学省から青少年の体験活動に関する興味深い調査結果が届きました。その内容は、「子どもの頃の「体験」は未来の社会を担う子どもたちの健やかな成長を確かなものにする。」というものです。小学生の頃に行った体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）などの経験は、長期間経過しても、その後の成長に良い影響を与えていることが分かったと調査結果に記されています。自然体験では主に自尊心や外向性、社会体験では勉強や授業が楽しいといった向学的な意識に良い影響があり、遊びやお手伝いなどが自尊心や外向性などに良い影響を与えることも分かったとのこと。また、健やかな成長を確

なものとするためには、何か1つの体験をするのではなく、多くの体験をすることが必要だと記されています。

横浜北YMCAは長きにわたり、キャンプなどの自然体験、ボランティアなどの社会体験をはじめ、様々な体験を通して子どもたちの成長に関わってきました。YMCAでの体験が、子どもたちの成長に良い影響を与えてきたことを改めて確認できたことは嬉しいことです。感染症拡大により、体験



の機会が減少している現状が残念でなりません。一日も早く自然体験活動等が安心してできるようになることを願いつつ、これからも未来を担う子どもたちの健やかな成長をサポートしていきたいと思ひます。

(皆様のご来場を待ちわびている 富士山YMCA 研修等からの撮影)

《あの日、あの時》

2019年5月24日、富士山YMCAで撮影したものです。当クラブ恒例の富士山例会に「横浜クラブ」と新たに誕生した「つるみクラブ」の皆さんにも参加を呼びかけ、学びと懇親の1泊2日を持った時のものです。この翌年にはCOVID-19の猛威により富士山例会を中止せざるを得なかったばかりか、今に至る自粛の時間が待ち受けているとは誰が想像したでしょうか。今は亡き金子功さん（右から3人目）のお元氣そうなお顔が懐かしく思われます。



9月のデータ

例会出席	26名	在籍会員数	16名	各種記録	月実績	年度累計
メンバー	15名	月間出席者数	15名	スマイル	0円	0円
ビジター	2名	メ-キャンプ	1名	-	-	-
ゲスト	9名	月間出席率	100%	-	-	-

《トピックス》つづきクラブでは、地域社協への協力事業の一環として毎年「赤い羽根募金」に協力しており、本年も去る10月5日(火)午後、最寄りのセンター南駅頭にて林、横田、岡田各ワイズが参加して行いました。以下は参加した岡田美和ワイズの報告です。

赤い羽根募金「戻ってきた男子」

今年も参加して、いろいろな人から助け合う温かい気持ちをいただきました。

40代の男の方がさりげなくやってきて募金をし、赤い羽根はいりませんとにこやかに。40代の女の方、目の前に来てお財布を広げ、ジャラ銭を出し全部募金しました。「これでいいでしょうかね」とにこやかに笑って去りました。60代の女の方、親しそうにやってきて「頑張っていますね」というようにさりげなく千円札を入れ、優しい目でした。70代の女の方、募金をした後いろいろ話をしていました。前回では4年生くらいの男の子が前を素通りしましたが、しばらくして、その男の子が戻ってきました。小さなお財布を開き、恥ずかしそうに募金をしてにこやかに立ち去って行きました。温かい気持ちになれた街頭募金でした。(岡田美和 記)

《ちょっとお目を拝借》～第二弾～

前号に掲載した“高齢者川柳”が結構好評だったのをいいことに、編集子は、当分続けていこうかと“手抜き”を決め込んでいます。

暫しおかつろぎください。

体力が 落ちてでも押せる 横車

健康に 粗食が合うと 手抜き妻

あちこちの 骨がなるなり 古希古希と

メモ帳の しまい場所にも メモがいる

人生の 時間が減るのに ヒマが増え



《特別寄稿》

「素人のワイン蘊蓄」 ～3～

横田 孝久

9月号のプリテンにて恥ずかしくも蘊蓄を言わせていただきましたがその追記として恥じらいもなく一言です。

修道院とワインの関係でフランスのブルゴーニュのクロ・ド・ブジョとドイツのシュロス・ヨハネスベルクの名前を書きました。

ヨーロッパでは修道院とワインの関係は大変深いのです。キリストがワインを「わが血」と言ったことから、キリスト教徒はワインを尊び、修道僧たちも、ワインを飲むためにブドウ栽培の可能な地域では修道院のそばにブドウ畑を作り、ワイン造りも研究しました。中世の時代は修道院は学問の研鑽の場でもあり、同時にブドウ栽培、醸造も研究されたので、良質のワインができるようになり、当然農民へも教えられました。そんな中で有名な銘醸がクロ・ド・ブジョの修道院でした。また、クラブ地区のシャトー・ラ・ミッション・オーブリエオンも小さいながら教会がありました。シャンパンで皆さんもよくご存じのドンペリニオンですが、このシャンパンは有名なオートブイエールの修道院で現在もこの修道院でワインを造っており、酒蔵（さかぐら）も有名です。

先ほどのドイツのヨハネスベルクは今でもドイツ最高のワインを産出する銘醸ですが、もともとはサンクト・ヨハン（聖ヨハネ）の祠（ほくら）に始まり十一世紀になってベネクト派の大僧院が造られ、そこでのワイン造りが盛んになって、その伝統が今でも続いています。特にドイツのワイン畑には固有名詞がついていて、それがワインの銘柄の一つにもなっています。本当にたくさん名前がありますが、小生の知る限りではクロスターベルク（修道院の山）というのがもっとも多いと思います。ドイツに詳しい方がおられたら、ご教授頂きたい

ものです。

さて、こんな事を書いていると、無性に現地を訪れてみたくなりましたがなにせ老体で体が云う事を聞きません、それに、大きな荷物を抱えての旅行は無理です。国内旅行ですら、その気になりません。ましてやコロナ禍。

昔の話になりますが、現役の頃にドイツに出張があり、フランクフルトへ日航機のビジネスクラスで銘柄を忘れましたが、美味しい白ワインを飲みました、確かにドイツ（モーゼル）ワインでした。そして、デュセルドルフでの仕事を終え、週末の休みにコブレンツ、ここはモーゼル川とライン川との合流地点ですが、ワイン造りを見学することにしてマインツなど数か所を訪れ、ペテルスブルグの山の上の名城で宿泊してそこでの夕食時の白ワインと赤ワイン（これはブルゴーニュのジブリシャンベルタンの高くないもの）を飲んだ記憶がよみがえりました。（昔を思い出す、認知症の初期かな）失礼しました。

コロナ禍こんな事ばかり思い出しては毎日飽きもせず飲んだくれています。（2021・10）



シャンパンの珠玉“ドンペリ”を作ったのはランス（仏）のサンピエール・ド・オートウイエール修道院のペリニオン修道士

